

病理診断部

診療スタッフ

部長 手島伸一
医長 工藤まどか
専攻医 内藤航

診療概要

組織診断、細胞診、迅速診断、剖検

診療実績

- 1.組織診断：11,083 件
- 2.細胞診：14,285 件
- 3.剖検：18 件
- 4.診療に必要なその他の病理実績
 - ・免疫染色：800 件(染色標本枚数：約 8,000 枚)
 - ・凍結標本の蛍光抗体法：150 件
 - ・病理標本を用いた遺伝子検索(FISH, MSI 検査など、外注)用の標本のプレアナリシス：550 件(未染標本枚数：約 4,000 枚)
- 5.診療に有用な病理学的サポート(病理医が主体性をもって行っている)
 - ・院内 CPC 毎月(10 回)
 - ・消化器病カンファランス 毎週
 - ・腎病理カンファランス 毎週
 - ・呼吸器病カンファランス 毎週
 - ・リンパ腫病理カンファランス 隔週
 - ・乳腺病理カンファランス 毎月(12 回)
 - ・婦人科病理カンファランス 4 回

【学会発表】

- 1.内藤航,伊藤絢子,工藤まどか,第 110 回日本病理学会春季総会,lymphoepithelioma-like な像を呈した混合型肝癌の一例,2021.4.
- 2.程島就,石井彩奈恵,小保方和彦,第 60 回日本臨床細胞学会秋季大会,心臓原発血管肉腫の 1 例,2021.11.

その他の活動

湘南鎌倉医療大学での講義(組織学、病理学)計 10 回

展望/抱負

当病理部は病理研修プログラムの基幹施設であり、それに見合った充実した体制づくりを目指す。また、当院は神奈川県立がんセンターを中核拠点病院とするがんゲノム医療の連携施設であるが、病理部が包括的がんゲノムプロファイリング(CGP)検査に病理がますます貢献するよう務める。特に、パラフィン標本を用いた分子病理診断(in situ hybridization, FISH, 遺伝子パネル検査)を推し進めていく。研究面でも卵巣腫瘍の初期像の分子生物学的研究を中心に進めていく。